

編 集 を 終 え て

第100回大会の記念行事が具体的に議論され始めたのは、昭和54年の4月の講演大会分科会でありました。沖縄大会の開催、会期4日間とし1日を特別講演会とする等々、いろいろな記念行事が積極的に提案され、多くの議論を経て今回の記念行事となつたものであります。

第100回を記念する小冊子の内容は、歴史と将来の展望を盛り込み、すみずみまで読んで貰える内容とすることを目標とし、6人の編集委員が選ばれました。

編集作業は、まず古い会誌、講演概要集、会社の年史などを収集し、全員が集つてそれらの資料を検討することから始めたが、その作業は朝から夜半に及ぶ激しいものでした。反面、60数年の歴史をひもどく楽しさも格別で、協会創立当時における大先輩達の活躍ぶりから、戦中戦後の鉄鋼業の苦悩、さらには高度成長期の爆発的な躍進など、筆を止めて語り合うこともしばしばでありました。それぞれの部門について「技術の変遷からみた講演の推移」を解析された担当委員の御苦労は大変なものでしたが、その努力が実つて非常に香りの高い成果をこの小冊子に収めることができた。

諸先輩の思い出話をお伺いすることも決して容易でなく、この人はずいぶん大先輩はすでに物故されているなど予想以上に難しい企画でありました。

未来を語る座談会は、オピニオン・リーダーの堺屋太一さんを、各社の若い企画担当者が囲むという構成にしようと委員会で決めてはみましたが、果たしてそうした夢のようなメンバー構成ができるかどうかという点で十分に自信のある企画ではありませんでした。しかし田畑専務の努力で堺屋さんの出席が決まり、西田礼次郎さんと藤田慶喜さんが選んだ各社の候補メンバーを中心に事務局の協力で交渉決定し、われわれの希望するメンバー構成ができたことで大成功となつたものであります。ちなみに、ご出席の方々の多くは2000年の鉄鋼産業に現役で関与しておられるだろうと予想される人々であります。

この小冊子を編集するに当り、資料の収集、メンバーの選定と交渉、図面の作製などにご協力いただいた事務局の方々に厚くお礼申し上げます。（郡司好喜）

日本鉄鋼協会編集委員会講演大会分科会（昭和55年7月現在）

編集委員長	田中 良平				
分科会主査	郡司 好喜				
幹 事	細井 祐三				
委 員	朝野秀次郎	岩永 寛	大橋 延夫	加藤 正一	川上 公成
	川口 忠雄	木原 諄二	木村 忠雄	国岡 計夫	児玉 文男
	佐野 信雄	中岡 一秀	中西 恭二	中村 泰	羽田野道春
	西田礼次郎	針間矢宣一	藤田 慶喜	水野 博司	宮川 大海
	安田 浩	柳本 左門	渡辺 敏		

記 念 誌 編 集 委 員 会

委 員 長	郡司 好喜				
委 員	川上 公成	木原 諄二	原 行明	針間矢宣一	細井 祐三
事 務 局	佐藤 公昭	下川 成海	桑原 良太		